

題材名 我が国の伝統音楽のよさや魅力を味わおう

第1学年 「A表現」(2) 器楽 及び [共通事項](1)
 「B鑑賞」(1) 鑑賞 及び [共通事項](1)

1 題材の目標

- (1) 我が国の伝統音楽の特徴や箏の音色や響きと奏法の関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付ける。
 (知識及び技能)
- (2) 音色、速度を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい器楽演奏を創意工夫するとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、我が国の伝統音楽のよさや美しさを味わって聴く。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 我が国の伝統音楽の特徴に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽や鑑賞の学習活動に取り組むとともに、我が国の伝統音楽に親しむ。(学びに向かう力、人間性等)

2 本題材で扱う学習指導要領の内容

第1学年 「A表現」(2) 器楽 ア, イ(1), ウ(ア)

第1学年 「B鑑賞」(1) 鑑賞 ア(ア), イ(ア)

[共通事項](1) (本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素:「音色」,「速度」)

重要!



3つの資質・能力ごとに目標を設定する。

チェック

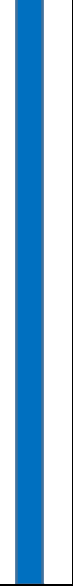
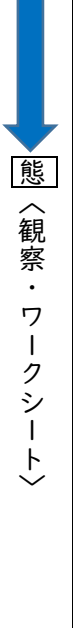
ポイント 2

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①知 箏の音色や響きと奏法との関わりについて理解している。(器楽)</p> <p>②知 「六段の調」の曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。(鑑賞)</p> <p>③技 創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付けている。(器楽)</p>	<p>思① 音色, 速度を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。(鑑賞)</p> <p>思② 音色, 速度を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、器楽表現を創意工夫している。(器楽)</p>	<p>態 我が国の伝統音楽の特徴や、箏の音色や響きと奏法との関わりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽と鑑賞の活動に取り組もうとしている。(器楽・鑑賞)</p> <p>注意</p> <p>複数の領域・分野を指導する場合は、どれに対応する評価規準なのか分かるように記載する。</p>

4 指導と評価の計画

時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動	知	思	態
		技	技	技
		〈 〉 内は評価方法		
第1時	<p>◆我が国の伝統音楽のよさについて考え、箏の音色や奏法への関心をもつ。</p> <p>○我が国の伝統音楽のよさについて考える。 ・これまで学習してきたことを手がかりに、我が国の伝統音楽のよさについて、自分の考えをワークシートに書く。</p> <p>○箏に関心をもつ。 ・「さくらさくら」を聴いて、箏に対する印象などをグループで自由に話し合う。</p> <p>○箏の奏法を知り、実際に音を出して、箏の奏法への関心をもつ。 ・箏を用いて音を出しながら、箏らしい音色や響きの出し方を考える。 ・姿勢、爪の付け方、箏の基本的な奏法について知り、ペアで交互に弾く。 ・実際に「さくらさくら」の旋律の冒頭部分を弾いてみる。</p> <p>○本時の振り返りをする。 ・自己評価カードを書く。</p>	ポイント1		
第2時	<p>◆箏の音色を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、箏の音色や響きと奏法との関わりについて理解する。</p> <p>○箏の音色を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じる。 ・「六段の調」の初段を聴いて、音色について聴き取ったこと、感じ取った雰囲気をワークシートに書き、全体で共有する。</p> <p>○箏の様々な奏法について知り、実際に弾いて、音色の変化を感じる。 ← ポイント3</p> <p>・教師の説明により、「引き色」「後押し」の奏法を知り、ペアで奏法を試し、音色の変化について気付いたことをワークシートに書き、共有する。</p> <p>○「引き色」「後押し」の口唱歌を歌い、音色の変化のイメージを実感する。 ・我が国の伝統音楽の特徴として、口唱歌を用いて楽器の演奏を伝えられていたということを知る。 ・映像を用いて「引き色」「後押し」の唱歌を知り、ペアで口唱歌を歌いながら演奏する。 ← ポイント3</p> <p>・楽譜を見ながら、口唱歌が表している音が実際に変化しているのかどうかを確かめ、感じたことをワークシートに書く。</p> <p>○2つの奏法に注目しながら、映像で「六段の調」の初段を鑑賞し、箏の音色の特徴やよさについて考える。 ・箏の音色の特徴やよさについて、自分の考えをワークシートに書く。</p> <p>○本時の振り返りをする。 ・自己評価カードを書く。</p>	<p>知</p> <p>①</p> <p>知</p> <p>↑観察・ワークシート↓</p>		

第 3 時	<p>◆「六段の調」の速度を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴</p>			
	<p>○「六段の調」の初段、三段、五段を聴き比べ、速度の変化に気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初段、三段、五段をそれぞれ聴き、気付いたことをワークシートに書く。 ・グループで意見交換し、速度の変化をグラフに表す。 ・「序破急」について知る。 <p>○知覚したことと感受したこととの関わりについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・速度が次第に速くなることで、音楽がどのような雰囲気になっているか、個人で考えワークシートに書き、学級全体で共有する。 <p>○箏のよさや魅力を味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「六段の調」を一曲通して鑑賞し、これまで学習してきた音色、速度の変化について感じたことを個人とグループで再確認する。 <p>○本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価カードを書く。 	② [知] 〈観察・ワークシート〉	[思] ① 〈ワークシート〉	
第 4 時	<p>◆箏の音色や響きと奏法との関わりに関心を持ち、「六段の調」の一節をどのように演奏するかについて思いや意図をもちながら、箏の演奏に必要な技能を、身に付ける。</p>			
	<p>○「六段の調」の一節を演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時までに学んだ箏の音色や奏法を活かし、「六段の調」をどのような思いで演奏したいか考える。 ・第2時に学習した「引き色」「後押し」の奏法を復習し、曲中で2つの奏法が出てくる部分を取り出して練習する。 ・「六段の調」の初段の冒頭部分（3小節）の口唱歌を一斉に練習する。 ・「六段の調」の初段の冒頭部分（3小節）をペアで交互に弾く。演奏していないときには、隣で口唱歌を歌う。 ← ポイント 3 <p>○我が国の伝統音楽のよさや魅力についてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで学習してきたことを振り返りながら、外国の人を対象として我が国の伝統音楽の紹介文を書き、よさや魅力を自分の言葉でまとめる。 <p>○本題材の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価カードを書く。 	③ [技] 〈演奏〉	[思] ② 〈観察・演奏・ワークシート〉	

5 指導と評価の一体化に向けて

ポイント 1 題材構想の段階で明確なねらいをもつ

今回は、生徒が我が国の伝統音楽に関心を持ち、器楽と鑑賞の活動を通して魅力やよさを味わうとともに、箏の演奏技能を身に付けることをねらいとして題材を構想した。1学年の生徒にはあまり馴染みのない伝統音楽に抵抗なく触れさせるために、「A表現」と「B鑑賞」の各領域を関連付けた授業を展開することとし、興味・関心をもちやすい箏の演奏と鑑賞を教材として活用した。

ポイント 2 音楽を形づくっている要素を適切に選択する

本題材で生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素について、「音色」と「速度」に絞ることとした。他にも「リズム（間）」や「強弱」、「旋律」等もよりどころとして考えられるが、あえて焦点化して指導することで生徒全員が知覚・感受や思考・表現がしやすくなり、教師の見取りの場面も精選できると考えた。「音色」「速度」以外の要素について気付き、演奏に生かしたり、感想に記述したりしている生徒は、評価の面でも「十分満足できる」状況だと判断することができる。

ポイント 3 資質・能力を育成するために学習活動を工夫する

今回、生徒は二人で一面の箏を使用した。お互いの演奏についてアドバイスし合ったり、気付いたことや感じたことを話し合ったりできる一方で、演奏できる時間は限られる。そこで、口唱歌を用いて授業を行った。口唱歌を歌いながら奏法を確認したり、旋律を演奏したりすることで、音色などを知覚・感受することができる。さらに、自分が演奏していない時でも口唱歌を歌いながらペアの演奏を聴くことができ、実感を伴った学習活動が展開できると考えた。また、口唱歌を用いて「どのように箏を演奏したいか」について試行錯誤している様子を思考・判断・表現の評価に生かすこととした。

6 まとめ

日頃から我が国の伝統音楽や和楽器の音色を聴き慣れている生徒は少なく、箏に触れることができる貴重な経験となり、興味・関心をもって授業にのぞんでいた。箏の音色から、和服を着ている人が演奏している様子や日本旅館のロビーで流れている様子などを一人一人が想像し、箏特有の音色の変化を知覚・感受する活動の中で“日本らしい音”がどう表現されているのかということを考えようとしていた。また、それらを「どのような思いをもち表現したいか」という個人の思いに繋げることができた。

一方で、「引き色」の音色の変化を感受する場面では、“下がって上がる”という音程の変化を正確に聴き取ることができず、口唱歌を歌いながら奏法を試すときに音の変化のイメージがない状態で思うように表現することができない生徒がいた。実感を伴う学びに繋げるためには、口唱歌を効果的に活用し、感受させることが必要であると感じた。さらに、「日本の伝統音楽のよさや魅力を味わう」ために、心の底からよいと感じられたかが課題である。3年間の学びを通して、日本人として、日本の伝統音楽を誇りに思う心を養っていくべきであると改めて感じた。